

目的 庶民の實際生活を基盤として生まれた地域的特色をもつ民俗服飾については、本学会の民俗服飾部会において、長年、地道な調査活動がつづけられているが、近年、民俗学、民族学などの関連諸領域においても、仕事着についての組織的な研究が意欲的に展開されはじめ、現状分析や当面の課題等が指摘されている。民俗服飾を物質文化として総合的、構造的に把握し、分析の対象とするためには、調査と並行して先づ整理法、すなわち資料の情報が的確に伝達可能となるような、統一された表現による記述の規定が必要であると思われる。ここではそれらの基礎的研究の一つとして、図面の作成法についての検討を試みた。

方法 これまで数年間にわたって試行錯誤してきた仕事着の図面の描き方を、日本工業規格の製図部門の手順に準じて整理しまとめた。対象とした規格は1984年に制定されたJIS Z 8310, 8311, 8312, 8313, 8314, 8316, 8317など製図総則や、製図の基本的、一般的事項に関する規格で、洋裁部門の製図であるJIS L 0110の被服製図通則(1977)も参考とした。

結果 民族服飾に必要な情報を記すための図面について、1. 用語の意味, 2. 目的, 3. 図面の大きさや様式, 4. 図面に用いる線, 5. 図面に用いる文字と記号と文章の書き方, 6. 図形の表し方, 7. 寸法記入の方法と尺度などを定め、a. 民俗服飾の二次元的な形状図, b. 染・織・刺子模様図, 意匠構成図; c. 縫い代・縫い方図, 裁ち方推定図などについての具体的な参照図を作成した。